

昆虫類

カテゴリー変更及び理由【昆虫類】

和名	旧和名	宮城県RL 2021	宮城県RDB 2016	変更	カテゴリー変更の主な理由
クロシジミ		EX	CR+EN	変更	1992年の記録を最後に確認されていない。判断基準に従い、過去概ね25年以上の生息情報が得られていないことから絶滅として扱った。
クスジクモバチ		CR+EN	NT	変更	海浜性種であり、震災後の確認例がきわめて少ないため。人為的攪乱などによる海浜環境悪化の影響が懸念される。
クスジツチスガリ		CR+EN	VU	変更	海浜性種であり、震災後の確認例がきわめて少ないため。人為的攪乱などによる海浜環境悪化の影響が懸念される。
ヒメズメ		CR+EN	VU	変更	最後の記録から40年以上確認されていないため。
ギンモンセダカモクメ		CR+EN	DD	変更	最後の記録から40年以上確認されていないため。
マダラヤンマ		VU	NT	変更	震災復興工事により、県内旧市町村別の生息地が11か所から7か所にまで減少し、絶滅率が35%から58%に上がったため。
クズハキリバチ		VU	—	新規	全国的に稀な種で、特に近年激減しているため。人家周辺を営巣場所とするため、再開などによる影響が懸念される。
オオセイボウ		VU	—	新規	今後の県内北部への分布拡大を探る上で学術的価値が高いため。
ヒウラカメムシ		NT	—	新規	河川下流部や海浜の湿地に生息し、分布記録が全国的に少ないため。
ナミハンミョウ		NT	—	新規	かつては身近に見られたが、近年の減少が著しいため。
コシロシタバ		NT	VU	変更	見落とされていた過去の記録が見つかったため。
ツガルホソシテムシ		DD	—	新規	宮城県が分布南限にあたり、生息情報が不足しているため。海岸に生息することから、震災後の復旧工事の影響が懸念される。
オオゴマシジミ		DD	—	新規	1948年、1949年、1970年頃の記録があるのみで、その後の生息状況が不明であるため。
シロオビハイロヤガ		DD	—	新規	山岳部におけるごく少数の記録があるのみで、情報が不足しているため。
キミミヤガ		DD	—	新規	山岳部におけるごく少数の記録があるのみで、情報が不足しているため。
オオトラフトンボ		—	VU	削除	調査の進展により、旧市町村別の生息地が6か所から13か所に増え、絶滅率が25%から13%まで下がったため。
ツチイロツトガ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
ゼニガサミズメイガ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
タツカモクメシヤチホコ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
キンタアツバ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
イチモジヒメトウ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
オオチャバネトウ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
クスジウスキトウ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
ガマトウ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。
ツマグロキトウ		—	NT	削除	複数の新たな生息地が発見されたため。